

新任部長・副部長紹介

■新任部長

6月昇任
脳神経内科
はやせ ふみこ
早瀬 史子
免許取得年／平成11年

■新任副部長

5月着任
乳腺外科
にしむら ともみ
西村 友美
免許取得年／平成20年

7月着任
救急科
おかだ りょうた
岡田 亮太
免許取得年／平成19年

7月着任
放射線診断科
つじ かずのぶ
都司 和伸
免許取得年／平成19年

10月着任
産婦人科
すぎた げんき
杉田 元気
免許取得年／平成21年

10月昇任
麻酔科
ふじおか さおり
藤岡 沙織
免許取得年／平成23年

1月昇任
脳神経外科
ささき なつひ
佐々木 夏一
免許取得年／平成24年

整形外科イブニングセミナー

標記セミナーを令和6年7月31日(水)に開催いたしました。座長を福井総合病院 整形外科科長 尾島 宏宏先生に務めていただき、整形外科 石川正洋より「人工関節置換術の新しい潮流(パーソナルアライメント及び最小侵襲手術)を考える」をテーマとしてハイブリッド形式で話題提供いたしました。当日は62名(会場:35名、オンライン:27名)の方にご参加いただきました。



骨・関節病イブニングセミナー

標記セミナーを令和6年10月30日(水)に開催いたしました。座長を木田整形外科 理事長 中嶋 幸大先生に務めていただき、リハビリテーション科 高嶋理より「当科における骨粗鬆症治療について～病診連携の強化を目指して～」また、整形外科 石川正洋より「走り出したくなる、早期に自宅に帰りたくする人工関節手術を目指して～術後回復促進(ERAS)の導入～」をテーマとして対面形式で話題提供いたしました。当日は49名の方にご参加いただきました。



歯科イブニングセミナー

標記セミナーを令和6年11月6日(水)に開催いたしました。歯科・口腔外科 山田和人より「顎骨壊死～2023年ポジションペーパーを踏まえて～」をテーマとして対面形式で話題提供いたしました。当日は23名の方にご参加いただきました。

在宅症例検討会

令和6年12月16日(月)に「こだわりの強いがん患者さんとの関わり」というテーマで、見える事例検討会(緩和ケア版)の手法を用いて在宅症例検討会を行いました。

当日は、46名(会場:38名、オンライン:8名)の方にご参加いただきました。「患者さんもご家族も納得して安楽に過ごすためにはどのようにすべきか」という事例提供者の課題に対し、さまざまな職種の参加者が意見を出し合い解決策を導き出しました。

日々の業務では専門分野の視点に偏りがちですが、患者さんの背景や思いを多角的に検討し、共有することで、患者さんやご家族との接し方について新たな気づきを見出す有意義な機会となりました。

今後もこのような検討会を通じて地域医療の充実に貢献していけたらと思います。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

腎臓・泌尿器科イブニングセミナー

標記セミナーを令和6年12月18日(水)に開催いたしました。リウマチ・膠原病内科 鈴木康倫より「膠原病内科外来の受診症例報告とシェーグレン症候群の国際共同研究の紹介」をテーマとしてハイブリッド形式で話題提供いたしました。当日は37名(会場:32名、オンライン:5名)の方にご参加いただきました。

開催報告

糖尿病イブニングセミナー

標記イブニングセミナーを令和6年5月28日(火)に開催いたしました。座長を代謝・内分泌内科 夏井耕之が務め、奈良県立医科大学 医師・患者関係学講座教授 石井 均先生より「糖尿病を持つ人のQOL向上を考慮した治療戦略」についてハイブリッド形式で話題提供いただきました。当日は35名(会場:22名、オンライン:13名)の方にご参加いただきました。

令和6年度 地域医療連携の会

地域医療連携の会を令和6年7月17日(水)に、ザ・グランユアーズフクイにて開催しました。当日は院外の59名の先生方に加え、院内から42名が参加し、大変盛んに開催することができました。ご参加いただいた先生方、誠にありがとうございました。



話題提供／乳がん治療と乳房再建のトピックス

「当院における乳房再建の方法について」形成外科 岡本仁
「進化する乳がん治療 ～外科手術と薬物療法の変遷～」乳腺外科 田中文恵

+ 福井赤十字病院

理念

人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。

基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。
- 安全と質を向上させ、優しい医療を行います。
- 人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。
- 急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。
- 保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。

地域医療連携課

受付時間／平日 8:00～18:30、土曜 8:30～13:30
TEL 0776-36-4110(直通)
FAX 0776-36-0240(専用)



<https://www.fukui-med.jrc.or.jp>
e-mail renkei@fukui-med.jrc.or.jp

連携通信第83号発行 令和7年1月 福井赤十字病院



Partner

福井赤十字病院連携通信(パートナー)

Japanese Red Cross Fukui Hospital vol.083

令和7年1月発行



「冬のメタセコイア並木」撮影／井波蘭(リハビリテーション科)

新年のご挨拶 2025年(令和7年)

明けましておめでとうございます。連携をお願いしております病院、医院、施設の皆様におかれましては穏やかな新年をお迎えのことと拝察しております。

本年、令和7年(2025年)は当院にとっては特別な年となります。当院は大正14年(1925年)に創立され、4月に100周年を迎えることになりました。100年の永きに渡り、地域の診療に関わってこられたのも周囲の皆様の温かいご支援あってのことと、まずは厚くお礼を申し上げます。

また、本年は、地域医療構想に関しては最初の着地点を迎える年となります。全国的に少子高齢化が顕著となり、令和7年(2025年)にはいわゆる団塊の世代が皆、75歳(後期高齢者)を迎えます。当院は地域における基幹病院として、高度急性期、急性期の医療を中心に据えておりますが、周囲の医療機関の皆様と協力し、人口構成の変化に対応して柔軟に医療ニーズに応じてまいります。

一昨年4月に小松が院長に就任しました。院外では病院のトッ

プセールスとして積極的に皆様とお付き合いをさせていただくよう努め、院内では組織の再編・構築に力を注いでまいりました。

令和6年秋には病院の電子カルテが刷新されました。また、院外処方せん発行を本格的に稼働させました。多くの皆様のご協力を賜り、改めて感謝申し上げます。

当院は地域のかかりつけの先生方との連携を一層推進し、高度急性期・急性期の診療、救急診療、がん診療、外科手術治療、入院診療に注力してまいります。

末筆ながら皆様のご多幸をお祈り申し上げ、当院への一層のご支援をお願いし、新年のご挨拶といたします。

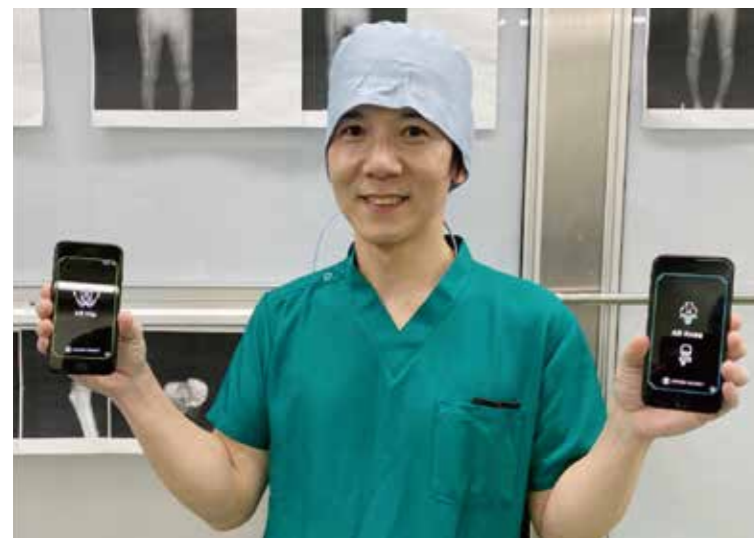


院長 小松 和人

走り出したくなる、 早期に自宅に帰りたくなる 人工関節手術を目指して ～関節外科センターの開設～

もし自分が手術を受けるなら、もし家族が手術を受けるなら、どのような人工関節手術が良いでしょうか？「専門のスタッフに治療してもらって、痛くなくて、早く回復して、早く自宅に帰りたい。あるいは帰ってきて欲しい」と思われるのではないのでしょうか？しかしながら、これまでの一般整形外科医療の大きな問題点は、手術をした医師とリハビリテーション科を含めた他職種とのコミュニケーション不足があり、上記の希望を必ずしも叶えることができない状態でした。また、同一病院であるのにも関わらず、医師ごとに手術の考え方の違い、術後リハビリテーション、退院時期の違いがあり、これにより他職種に大きな負担がかかることも問題点でした。上記の問題点を解決するために、当院では関節外科センターを開設しました。

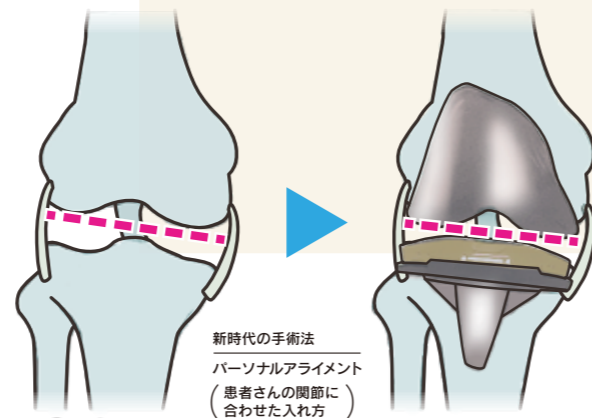
目的の一つは病院内外を含めたチーム医療を実践することです。例えば、がん治療などでチーム医療は一般的ですが、整形外科分野では全国的に見ても全く盛んではありません。今後は多職種で専門的な知識と技術を持った関節外科医療チームを作り、患者さんごとに個別の治療や、各々の生活スタイルに合った細やかなリハビリテーションを提供できることを目的としています。



ます。また、この取り組みにより、院内の上記対象疾患に関して医療従事者全員が一つのチームとして共通認識を持って治療を行えます。

もう一つの目的は、関節外科治療に対する専門性をより高めることです。人工膝関節置換術では、近年個々に合わせてインプラントを設置する「パーソナルアライメント」と呼ばれる新時代の手術法は患者さんの満足度が高いと報告されています。当院での人工膝関節置換術は患者さんの関節ごとに合わせた入れ方をこの手法で筋肉を切らずに手術を行っています。また、人工股関節置換術は、筋肉を切らずに術後運動制限のない前方進入法での手術を行っており、術後は関節外科専門のスタッフがリハビリテーションを行っています。

このような取り組みによって、患者さんが術後に「走り出したくなる」「早く自宅に帰りたい」と感じられる治療を提供し、患者さんやご家族の方々が安心して「この手術を受けて良かった」と思っただけのことを目指しています。常により良くなるように弛まぬ努力を続けていきたいと思っておりますので、今後とも何卒宜しくお願いいたします。



日本で開発されたARポータブルナビゲーションを、人工膝関節手術に臨床応用できるかの検証を講師として行っています。同じ日に、人工股関節、膝関節に使用したのは、世界で初めてのことで



整形外科部長
石川 正洋

手術支援 ロボットを使用した 肺切除

現在、肺の手術の多くは胸腔鏡手術で行われています。胸腔鏡手術は開胸手術より低侵襲で速やかな術後回復につながる一方、手術器具の可動域が制限され、細かな操作に難があるのが欠点です。このような胸腔鏡手術の欠点を克服するものとして普及してきているのが手術支援ロボットを使用した手術(ロボット支援手術)です。当院は2024年7月に保険診療としてのロボット支援肺切除を福井県内の病院として初めて行いました。

手術支援ロボットの特徴は、術者が自在に動かせる鉗子、立体視と高倍率ズームが可能な内視鏡、鉗子の手振れ補正など多岐にわたります。ロボット支援手術は胸腔鏡手術と同じく低侵襲でありながら、より精度の高い操作が可能です。肺切除では肺実質や肺動脈など脆弱な組織を扱いますが、ロボット支援手術は狭い空間での組織愛護的な操作に威力を発揮します。それ以外にも、胸腔鏡手術では困難な場面もロボット支援手術では自然な手技ですんなり乗り越えてしまうことも多々あるなど、手術の質の向上を実感しています。

ロボット支援手術の安全性は胸腔鏡手術と同等と考えられています。当院で本稿執筆時点までに計20例のロ



呼吸器外科部長
松倉 規



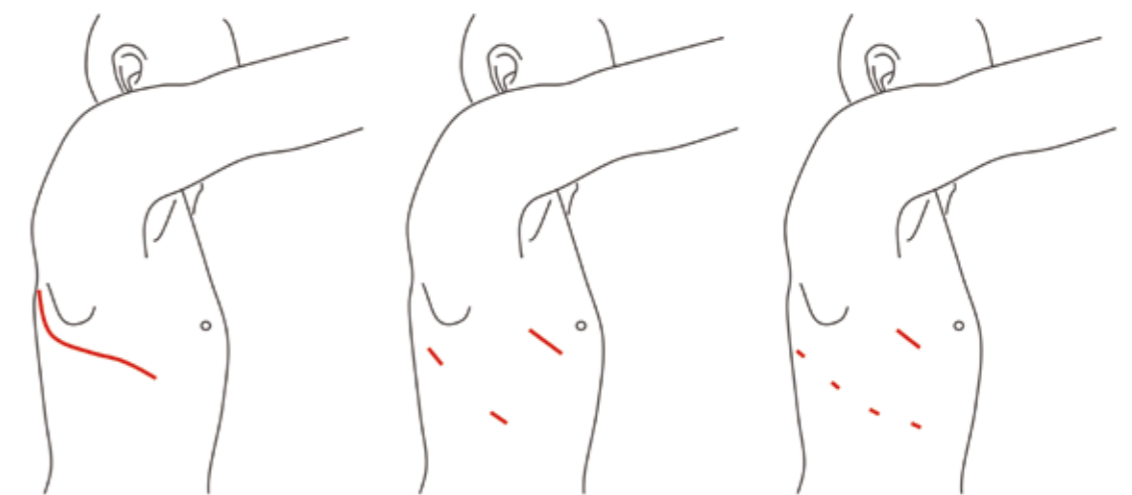
呼吸器外科副部長
山岸 弘哉

ット支援肺切除を行いました。術中・術後の主要な合併症はありませんでした。

当科のロボット支援手術が地元紙で取り上げられたこともあってか、患者さんからお声がけいただくことも増えてきました。2024年6月に適用が拡大し、肺癌に加えて良性疾患に対する手術もロボット支援下で行えるようになりました。当科では患者さんや連携医療機関の先生方のご期待に応えられるよう、引き続きロボット支援手術に取り組んでいきます。



手術創



開胸手術

胸腔鏡手術

ロボット支援手術